

中東における民族及び宗教を理由とした  
暴力の被害に関する閣僚級会議

藺浦 健太郎・日本国外務大臣政務官スピーチ  
2015年9月8日

パオロ・ジェンティローニ・イタリア共和国外務・国際協力大臣、  
ご列席の皆様、

まず、今回の重要な会合を開催頂いたことに敬意を表します。

中東地域においては、暴力的過激主義の伸張により、多様な社会が脅かされています。私は宗教的・民族的マイノリティを含む地域の人々が現在直面する危機を強く感じています。宗教・宗派・民族等の違いを理由に、暴力を用いて他者を排除しようとする独善的な思想を許してはなりません。国際社会は、その英知を結集し、暴力的過激主義に毅然として立ち向かわねばならず、そのような取組において、日本は積極的な役割を果たしていきます。

暴力的過激主義の跋扈は、多くの難民・避難民を生み出し、人道状況も日に日に厳しさを増しています。当面の人道支援を行うことは当然ですが、より長い目で見れば、中東地域における安定を取り戻し、少数派を含む市民が民族・宗教の多様性の中で平和な暮らしを送ることができるようにすることが何よりも重要です。

日本は「中庸が最善（ハイルル・ウムーリ・アウサトハー）」の考えの下、民生を安定させ、中間層を育て、過激主義が定着しにくい社会を築くための国づくり、人づくり支援や国民融和を後押しする支援といった、我が国の強みを活かした支援を行ってきています。

こうした考え方を具現化するため、日本は、本年7月に行った1000万ドルの緊急無償資金協力を含め、昨年2月以降、約1.27億ドルに達する対イラク支援を行ってきました。また、シリア危機の発生以降、日本が実施した支援総額は約11.35億ドルにのぼります。これらの人道支援を始めとした我が国の対中東

支援は、若者の失業対策、社会の格差是正、教育などの分野で実施されてきています。

日本は国際機関が実施する下記のようなプロジェクトに積極的に支援してきています。

- ・ イラク・シリア等への仮設住宅建設
- ・ イラクの国内避難民の子供に対する教育環境の整備
- ・ イラクの文化財保護のための人材育成支援
- ・ ジェンダー平等と女性のための研修・啓蒙活動への支援

今回の会合が、中東に「安定」と「中庸」を取り戻すための取組において、重要な契機となると確信しています。

御清聴ありがとうございました。